

2021年7月24日

年間第17主日

菊地功大司教 メッセージ

列王記は、飢饉に見舞われた地であって、預言者エリシャのもとへ持ってこられた少ないパンが、召使いの常識を越えて、百名の人の空腹を満たした奇跡的な話を記しています。

ヨハネ福音も、いわゆる「五つのパンと二匹の魚」の物語を記し、少年がささげた少ないパンと魚が、イエスのみ言葉を聞くために集まっていた五千人を超える人たちの空腹を満たした、奇跡物語を記しています。

どちらにも通じるのは、もちろん少ない食べ物が多くの人を満たしたと言う奇跡の物語であり、御父である神の、また主イエスの偉大な力を示しています。同時にそれは、自分が持つ数少ないものをまもるのではなく、他者のために惜しみなく分かち合ったときに生まれる愛の絆の物語でもあります。そしてそれは、ミサを通じて主の食卓にあずかり、主イエスご自身の現存である御聖体によって生かされることで教会共同体にもたらされる、霊的な一致の意味をあらためて考えさせるものでもあります。主の十字架上での自己犠牲は、神による最大の愛のあかしであります。

パウロはエフェソの教会への手紙で、まさしくこの霊的一致について語ります。パウロは、例えばローマ書など他の書簡で一致について、一つの体とその部分であるわたしたちのようなたとえを記しますが、一致は決して皆が全く同じように考え、同じように行動するのではないことを明確にしています。それぞれはそれぞれが与えられた使命に自らの決断を持って生きているのであって、一致は同じ霊によって生かされ、同じ主における「一つの希望にあずかるように」と招かれている生き方にあります。主イエスを中心とした愛の絆に結ばれていることこそが、わたしたちの語る一致であります。

さて教皇様は、今年から、7月26日の聖ヨアキムとアンナの記念日に近い主日を、「祖父母と高齢者のための世界祈願日」と定められ、メッセージを發表されています。今年

は7月25日がこの祈願日となります。教皇様のメッセージのテーマは、「わたしはいつもあなたがたと共にいる」（参照：マタイ 28,20）とされています。教皇様はメッセージの中で、今回の「パンデミックは思いがけない嵐のようにそれぞれの生活に試練を与えたが、とりわけお年寄りに与えた影響は厳しいものであった」と述べられ、亡くなられた多数の高齢者への思いを記されています。その上で、「主はわたしたち一人ひとりの苦しみを知り、痛ましい経験をした人々のそばにおられ、その孤独を心にかけておられる」と呼びかけられます。わたしたちが招かれている霊的一致は、いのちが忘れ去られ孤独のうちにあることをよしとしません。すべてのいのちに主が共にいることを、あかしするよう、わたしたちは招かれています。

教皇様の「フラテリ・トゥッティ」にもこう記されています。「わたしたちは、歴史の教訓、「人生の師である歴史」をすぐに忘れます。・・・長年の医療体制の縮小の結果の一部として、呼吸器が不足で亡くなった高齢者を、どうかわたしたちが忘れずにいられますように。・・・わたしたちには互いが必要で、互いに対し義務を負っていることを、はっきりと気づくことができますように」（35）

東京教区の宣教司牧方針も、「わたしはいつもあなた方と共にいる」という御言葉に導かれます。わたしたちは、三つの柱の一つである「すべてのいのちを大切にする共同体」も目指しています。社会の多様化の中で、より小さいいのち、より弱いいのちがないがしろにされつつあります。神からいただいたいのちを大切にし、それぞれのいのちを尊重しあう共同体をめざしましょう。